

進路通信



上野高校進路指導部通信（3年生 家庭配布版） vol.1 2015/9/15

今更聞けない大学入試センター試験の基礎知識 2016 年度入試編

①センター試験の主な特徴

(1) 国公立大学を受験する人はマスト。大学個別の試験との総合点で合否が判定

センター試験は、原則的にすべての国公立大学が一次試験として利用する共通試験です。センター試験後、二次試験を受け、両試験の総合得点で合否が判定されます。

(2) 私立大学も入学試験として利用する（センター方式）

たいていはセンター試験の成績のみで合否を判定するため、出願するだけで自動的に合否が決定します。その大学へ行って試験を受ける必要がないので負担が少なくて済みます。必要科目数は各大学、各方式多様で、国公立第一志望で私立を「滑り止め」にする生徒の多くは、科目数の多い方式に出願します。私立専願の人は一般入試と同じ科目数で出願します。一般試験とセンター試験を併用する方式もあります。

(3) 入試として課す科目・配点は各大学に任されている

センター試験で用意されている 6 教科 30 科目のうち、受験生にどの教科・科目を課すのか、どのような配点をするのか、については、すべて各大学の裁量に任されています。例えば三重大学の工学部は、二次試験で英語の試験がない代わりにセンター試験の英語の配点を高くしてあります。

国公立大学は 5 教科 7 科目が主流で、文系では国、外+リス、数×2 地歴・公民から 2 理科、理系は国、外+リス、数×2 地歴または公民、理科から 2 です。

(4) 採点はコンピュータで処理、全問マークセンス方式

センター試験は、選択肢から正解と思われるものを選び、マークを鉛筆で塗りつぶしていく「マークセンス方式」で実施され、採点はコンピュータによって行われます。

(5) 出題は文部科学省検定済の教科書範囲内

センター試験の問題は、平均点が 6 割程度になるような方針で作成されています。教科書範囲を超える難問・奇問は出題しない約束です。教科書をきちんと理解できていれば、高得点が取れます。

(6) 受験生本人には、得点を通知されないため、自己採点が必要

国公立大学二次試験出願前には、受験生に得点は通知されません（開示を申し込めば 4 月以降に本人に通知されます）。そのため、新聞発表の解答で自己採点し、自己採点業者などに提出します。

②国公立大学への出願…分離分割(前期・後期)方式と公立大学中期日程

国公立大学を受験する人は最初にセンター試験を受け、試験後に「志望校」に出願し、二次試験を個別に受験します。二次試験には「分離分割方式」と「公立大学中期日程」があります。

分離分割方式とは、同じ大学・学部の募集定員を前期（2 月下旬）と後期（3 月中旬）の 2 つの日程に分けて、入試を行う方式です（出願は同時に行います）。募集定員は前期が多く後期は少ない大学がほとんどです。したがって出願時は後期の倍率が極端に高くなります。ただし、前期日程に合格して入学手続きをした人は後期日程の受験資格を失いますので、実際は 3 倍程度の競争率になります。

中期日程は公立大学の一部で実施されています。前期と後期の間に試験が実施され（3 月上旬）、これらと併願も可能です。前期入試で合格して手続きすれば合格資格を失います。ごく一部の公立大学（国際教養大学・新潟県立大学）は全く別日程（A, B, C）で入試を実施します。詳しくは『進路の手引き』を参照してください。

③センター試験の重要なポイント

(1) 「地歴・公民」「理科②（基礎なし科目・専門科目）」は 1 科目受験は 60 分で解答、2 科目受験は 130 分の中で 2 科目を解答します（開始 60 分後に第一解答科目を回収します。途中で退出できません）。

(2) 受験教科を出願時に申請します。「地歴・公民」は受験科目数を、「理科」は受験型を出願時に申請します。（基本的に文系の人は A、理系の人は D が多いはずです）

理科の受験型	A：理科①（基礎科目）2 科目	B：理科②（専門科目）1 科目
	C：理科①2 科目+理科②1 科目	D：理科② 2 科目

2 科目受験、1 科目受験は開始時間と受験教室が異なります。2 科目受験で申し込んだ人が志望変更で「1 科目でいい」となっても、2 科目目の時間から入室しようとしてもできませんし、途中で退室することもできません。志望校をよく検討して、最大必要数を受験するようにしてください。

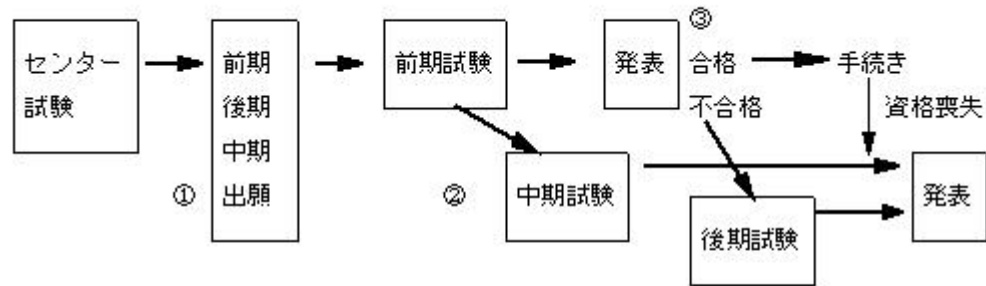
④ 受験するときにも要注意！「第一解答科目」と「第二解答科目」

「地歴・公民」「理科②」は開始から 60 分後に「第一解答科目」を回収します。「地歴・公民から 1」、「理科から 1」を条件とする大学はこの「第一解答科目」を得点とします。

理科については、たいてい理系の国公立は「理科から 2（受験型の D）」指定ですが、後期入試や AO 入試では 1 科目を指定する大学がごくまれにあります。その場合、「化学」「物理」の順で解答した生徒は、「物理」を指定する大学は受験できません。また「地歴・公民」の場合も「第一解答科目は地歴」という指定がある大学がごくまれにあります。必ず募集要項で確認してください。

また「地歴・公民」では「4 単位科目」（地歴 B 科目、「倫理、政治・経済」）の受験を義務づける大学があります。これらの大学は 2 単位科目の地歴 A 科目や「現代社会」での受験はできません。難関大学の文系は、現在ほぼこの 4 単位科目の受験を義務づけています。

国公立大学一般試験の流れ



- ① 前期・後期・中期は同時に出願する。
- ② 中期試験は前期発表の前後にある。前期に合格して手続きすれば中期は合格から除外。
- ③ 後期試験は前期の手続き後にある。前期に合格して手続きすれば後期は受験できない。

⑤ 国公立大学合格に抜け道や裏技は不要。ひたすら「王道」を目指せ！

理論上、国公立大学は推薦入試（1校だけ受験可。合格したら入学辞退不可）、前期、中期、後期と計4回の受験機会があります（推薦の代わりにAOを実施する大学もある）。しかし推薦やAO入試は募集定員が極端に少なく、小論文や口頭試問が課される難関です。「チャンスは多い方がいい」「ペーパーテストが不要」といった安易な理由で受験するとデメリットの方が大きくなります。中期試験は実施する大学が少なく、全国から生徒が集まりますので激戦を覚悟しておくべきです。後期日程は前期の合格者の数で倍率が変わりますから、合格の保証は全くできません。しかし、過去の生徒の状況を見てみると、粘り強く、継続して努力し続けた生徒が合格しているケースが多いです。

「最後まで頑張る」は当然ですが、まずは前期日程での合格を第一と考え、それに沿った学習計画を立てましょう。前期試験が最も定員が多く、センター試験で何割、二次試験で何割など勉強の目標がたてやすいからです。

国公立大学の二次試験は前期が2～3教科、最難関で4教科。センター試験の配点が高い大学と、センター試験は単なる資格審査という大学（最難関に多い）がありますが、ここ2年はいわゆる「安全志向」といって、例えば名古屋工業大学に十分合格できるセンターの点数を持っていながら、より確実に合格をするため三重大学工学部に志願する生徒が増加しています。また二次の配点が高い難関大学も、センター試験の大量得点が合格の第一条件になっています。

受験とは「合格したい」という気持ちのぶつかり合いです。「効率的な勉強法」は存在しますが、「楽しんで合格する方法」は存在しません。志望校に沿った学習計画を地道に積み重ねてください。

☆ センター試験関係の日程

- 9月16日(水) センター試験受験案内配布・説明
- 9月16日(水)～センター試験検定料支払い(郵便局・銀行など)
- 9月24日(木)～28日(月) センター試験志願票担任へ提出
- 9月29日(火)～10月9日(金) センター試験出願(志願票は学校で一括郵送)
- 10月下旬 センター試験出願受理通知配布
- 12月上旬 センター試験受験票等配布
- 1月16日(土)・17日(日) センター試験(三重大学予定)

☆ 願書取り寄せ～出願～受験～結果報告までの流れ

- ① 募集要項および願書は、指定校推薦を除いて、皆さんが自分で取り寄せます(学校にはありません)。
 - ② 受験する際には事前に担任と相談し、「〇〇大学を△△入試で受験する」ことを伝えてください。
 - ③ 大学に出願するためには、募集要項に入っている願書以外に、学校が発行する「調査書」(皆さんの3年間の成績が記載されています)などがが必要です。募集要項をよく読み、出願時に何が必要か調べてください。三年生担任室に「出願先報告票」(白色)と「調査書発行願」(水色)があります。出願日の2週間前に出願先、調査書数など必要事項を記入して、担任に提出してください。
 - ④ 大学への出願は、指定校推薦及び一部の国公立推薦を除いて、皆さんが郵送します。必要書類が不足していないか、受験料の領収印が押されているか確認して、期日(必着 or 消印有効)までに郵送してください。
 - ⑤ センター試験の願書取り寄せおよび出願は、学校で一括して行います。LHRで説明します。
 - ⑥ 受験日が学校の登校日である場合は、必ず担任に報告し、必要な手続きを行ってください。
 - ⑦ 推薦入試、AO入試を受験した生徒は、その報告書を提出してください。
 - ⑧ 受験結果が判明した生徒は、結果にかかわらず、すぐ担任に報告してください。
- * **出願に必要な書類とそれぞれの申請の方法の詳細は、『進路の手引き』p63・64を参照。**

皆さんが出願の際に提出する調査書、これが発行されるまでには、成績を管理している担任や教務の先生、書類を決裁していただく校長先生、教頭先生、事務の先生と何人もの手を経由します。「たかが一日遅れたって…」という甘い考えは厳禁です。あなたの勝手な判断がたくさんの人の迷惑になること、あなた一人で受験に臨んでいるのではないということを肝に銘じましょう。書類を申請するときには「お願いします」、書類を受け取る時は「ありがとうございました」はマストです。



情報収集力とそれに基づく計画力、行動力が合格の鍵！
受験は一人ではできない。謙虚な気持ち・誠実な姿勢・感謝の言葉を忘れずに！